

# イベント企画部の YouTube 配信

イベント企画部（朝青チーム）からのお知らせです。

2021年10月に予定されている千葉ハッキョ創立75周年記念行事に向けて、朝青では今後Youtube配信を行っていきます！



## ★注意事項★

出演者にはSNSで動画を拡散しない旨を伝えており、SNSでの動画・URL掲載はご遠慮願います。  
SNS上で無制限に動画が拡散された場合、出演者に思いがけない不利益が及ぶ可能性を考慮しての対応ですので、ご理解・ご協力のほど宜しくお願いします。

## ★お願い★

動画を視聴していただき、①チャンネル登録、②高評価の2点を是非お願いします。視聴者心理として、チャンネル登録者数・高評価数が多いと視聴意欲が上がります。千葉ハッキョの為に、チャンネル登録・高評価ボタンをポチッとクリックをお願いします！！

①朝青結成65周年記念 <千葉ハッキョ行ってみた2020>

→朝青結成65周年記念で朝青千葉で作成した動画であり、今回の75周年記念行事とは関係の無い動画です。お時間がありましたらこちらをご覧ください

②【重大発表】朝青千葉、動きます。

→75周年記念行事に向けての朝青youtube配信企画の説明動画です。

③「75」チャレンジNo.1【朝青千葉支部】

→朝青千葉支部のチャレンジ動画です。

お願いします！

チャンネル登録



## 千葉学校創立75周年 NEW学校ホームページ

学生たちがもっと学び、遊び、体験できる環境づくり  
学習会 & 意見交換会



## いままでにない発想のホームページ

3月6日、千葉朝鮮学校先生たちを対象とした学習会&意見交換会が行われた。学習会の主な内容はホームページ制作及び学生たちがもっと学び、遊び、体験できる環境づくりに関する説明、意見交換が行われた。梁昌基宣伝広報チーム担当者がホームページ制作説明を行い、「学校の顔」になるホームページについて沢山の意見交換が行われた。

## 2021年度からのプログラミング授業研究中

知識経済時代に合わせたプログラミング授業を自分たちの力で構築するために、日々、会議、研究、実践を繰り返す学校創立75周年事業実行委員会魅力化部署プログラミングチーム。前例の少ない中で、学生たちのために何が出来るのかを、朝鮮大学の先生やITプログラマーなどの専門家を交え、研究している。また、一時的なイベントではなく、年間を通じてより深く学べるように授業のコマ数や先生、機材などを準備している。2021年4月より実施予定。民族教育の新しいページが開かれる！



## 魅力化部 プログラミングチーム

## 財政部 新規事業チーム

千葉学校の慢性的な財政難を克服するためには、新しい事業を始めなければいけないと学校創立75周年記念事業実行委員会財政部内にある新規事業チーム。数度の会議の中で、様々なアイデアや過去の事業などを検証する中で、まずは出来ることをはじめようと商品販売やメルカリなどのインターネットを使った事業、学校の施設を有効活用し、地域や同胞社会にも有益な事業など検討している。そのために試験的にでも実践行動をはじめ、データを集め、検討し3月13日の実行委員会に向け計画を立案している。※財政事業では、現在、過去の一口1,000円運動をはじめ様々な財政事業を再検証している。そして、各種事業が上手くいかなかった理由など今までの事業を真摯に総括し、改善点を模索している。現在、一口運動を中心に事業を展開している。



人間力とは？  
共和国には「송은영(송은영) (隠れた英雄たち)」という言葉がある。学校創立75周年事業ももちろん、多くの人が支えられている。夜遅くまで会議をする実行委員。日曜日に朝から学校に来てキムチを売る財政部のメンバーたち。これは決して学校創立事業だけでなく職場や地域社会も同じである。自分の周りの「縁の下」の力持ちを見つけて、感謝する力は、学力などのように数値で評価しにくい。厳しい社会を生き抜く上で重要な能力だと思ふ。これはコミュニケーションなどの「人間力」の根源的な部分かもしれない。自分を支えてくれる人に感謝できないことはとても寂しい。朝鮮学校の学生たちは、そのような姿勢をいつも見ている。そして、そのような人たちの日々、行動を見て感じている。だからこそ、朝鮮学校の学生たちは、素直な目と大きな声で挨拶をし、日々、感謝する。それが朝鮮学校の日常である。  
これは人間としてとても重要な能力であるかもしれない。決して、学習費や高いお金を出したからといって身につくものではない。(金)

## 編集後記

1963年1月10日、千葉市花見川区浪花町(現住所)に新校舎(現在言う旧校舎)が建設された。1979年12月2日、現在の校舎が建設されるまで、約16年間、千葉県下の民族教育と同胞たちの拠点として多くの民族人材を輩出してきた。1954年に金日成主席が送られた教育援助費と奨学金を機に、千葉県全域を網羅した民族教育へと発展させるために、1961年11月に千葉朝鮮初級学校と船橋朝鮮初級学校が統合。そして中級部を併設した。当時の学生数は283名、教員数15名。56年から58年まで千葉で中級部を運営していたが、新校舎建設により中級部が再開。これで千葉民族教育は、中等教育を含め新しい段階に入る。新校舎建設活動は、校舎建設だけでなく千葉民族教育を大きく飛躍させた千葉民族教育史に輝く一大教育大衆運動であった。1963年の新校舎建設には多くの逸話が残っている。日本の公安当局の妨害があったにもかかわらず最後まであきらめず千坪の土地を確保。検見川の土地を選択した理由については、千葉、船橋の交通の便だけでなく、そこには未来の子供たちへの同胞愛があったのかもしれない。当時、浪花町は松並木が有名で、学校の校門横にある「(문지기나무) 문지기나무」はその当時からあったと思われる。他には細しかなくはあまり住んでいなかったが、昔の資料を調べると「浪花台地」と呼ばれ、地震や津波などの災害に強い土地であり、記録としても大きな大災害はなかった。また、建設費用を集めるために多くの同胞たちが立ち上がった。毎日コツコツと働きながらも莫大な寄付をされた同胞商人たち、分会を中心に「毎日5円貯金運動」に参加した同胞たち。今でもその伝統が継がれている。廃品回収も、その当時から行われていた。特に建設労働で寄せた同胞も多く実に350名以上いた。新校舎建設以降も「もつと」学生たちによりよい環境を「と」1964年3月には敷地を百坪拡張、1965年4月には食堂と売店を増築している。食堂では400人分の食事を毎日調理し、学校に隣接していた学生寮「光壮」では茂原、木更津、大喜などの遠方の子供たちも生活していたので、朝食や夕食も作っていた。当時の時代背景を見ると食べられなかった子供もいたので食堂はまさに子供たちの「命」を守った。だからこそ、当時、食堂で働く職員たちを子供たちは「オモニ」と呼んだ。先生たちも奮闘した。69年の記録を見ると先生たちの平均経験年数は5年。若い先生たちも多かったが、分科別学習会や家庭訪問などが毎週あり、子供たちのために教壇にたった。特に学校として国語(朝鮮語)教育に力を入れ、すべての科目で目的意識的に国語能力を高めるように教えていた。また、少年団活動もあった。1960年代の千葉民族教育を振り返ると、現在の民族教育の「原型」が形成された時期だと思われる。75周年を迎える今、同胞たちの果てしない同胞愛に支えられ、昼夜を問わず子供たちのために働く先生たち、時代は変化し人は代わっても、その姿は昔と変わらないのかもしれない。



## 千葉朝鮮初級学校物語 (3) 千葉民族教育の「原型」(60年代)